まずは、この順番で

ScaniverseのGLBを開き、外壁から境界まで・外壁の長さを測って、写真付きで報告するためのガイドです。

用意するもの

建物を撮影したiPhone、Scaniverse、建物のGLBファイル、GLBスケールを開くWindows PC。PCはEdge・Chromeを使います。スマホでも操作できますが、面の指定はPCの方が確認しやすくなります。

新しくスキャンする場合

Scaniverseの「＋」から撮影します。メッシュを作成し、GLBで書き出せる設定を使ってください。撮影・処理の設定名はアプリの版で異なることがあります。

撮影で押さえるところ

外壁の平らな部分、角の両側、境界の基準にする塀や境界標を続けて撮ります。ゆっくり動き、同じ壁を少しずつ重ねて撮影。車・植木・室外機だけで壁が隠れない位置も確保します。

境界の基準を先に確認

塀を使うときは、どの面を境界の基準にするかを確認します。塀がないときは、同じ境界区間の境界点2点をスキャンしておきます。アプリが境界位置を自動で決める機能ではありません。

今回の画面について

Scaniverseの写真は提供いただいた実際の画面です。新しい版ではボタン名・配置が変わることがあります。GLBスケールの手順は、この説明書と同梱する版に合わせています。

Scaniverseから書き出す

Scaniverse → GLB → 測定 → 記録・報告書

iPhoneで、対象のスキャンを開く

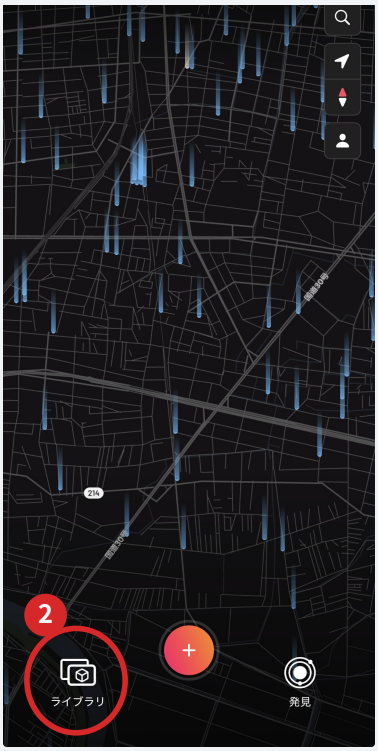
撮影済みの建物を使う場合は、この3操作から始めます。

1 Scaniverseを開く



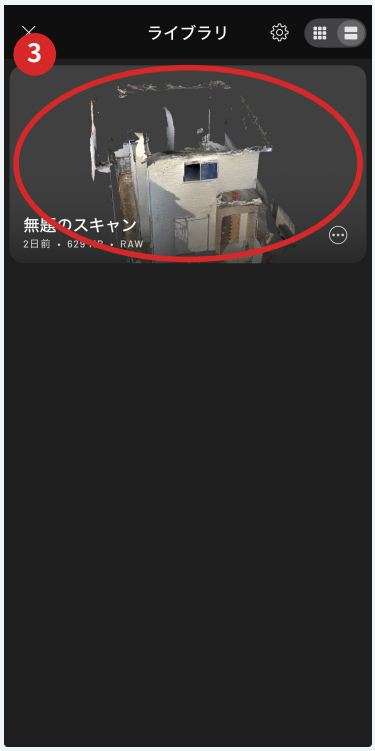
ホーム画面のScaniverseアイコンをタップします。

2 ライブラリを開く



地図画面の左下「ライブラリ」をタップ。中央の「＋」は新しく撮影するときに使います。

3 建物のスキャンを選ぶ



ライブラリで対象の建物をタップします。写真の「629 MB・RAW」はScaniverse内のデータ表示で、これから出力するGLBの容量とは別です。

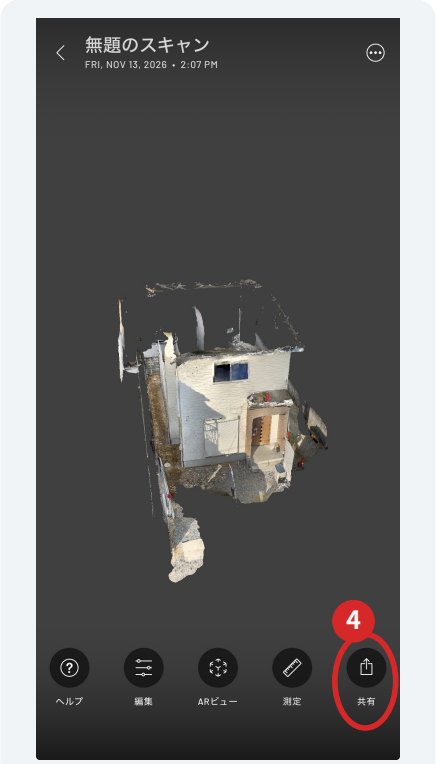
画面全体を載せています。赤丸で示した場所をタップしてください。地図に表示される公開スキャンのリンクを送る操作は使いません。

画面の文字を目印に操作してください。次ページへ進む前に、対象の建物を選んだか確認します。

共有から、GLBを書き出す

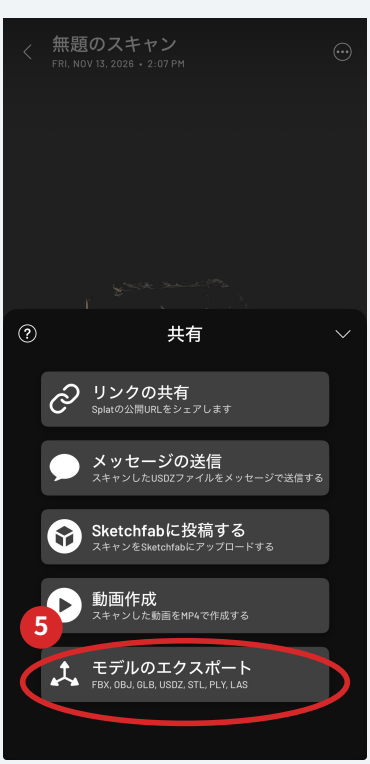
「共有」から「モデルのエクスポート」へ進みます。

4 右下の「共有」



建物の画面の右下にある、上向き矢印の「共有」をタップします。

5 モデルのエクスポート



共有メニューの下側「モデルのエクスポート」をタップ。「リンクの共有」「メッセージの送信」ではありません。

6 「GLB」を選ぶ



形式の一覧から「GLB」をタップ。続いて表示されるiPhoneの共有画面で、ファイルの保存先・送信先を選びます。

GLBスケールに渡すのは「.glb」で終わるファイル本体です。URL、動画、USDZ、PLY、スプラットのファイルとは異なります。

保存・送信が終わったら、PC側でGLBファイル本体を確認します。

PCへ渡して、GLBを開く

ここからはWindows PCを基本に説明します。

1 PCの現場フォルダーに保存

iPhoneの共有画面から、事務所で使っている転送手段でGLBファイルをPCへ渡します。「ファイルに保存」でiPhone内に置いただけではPCには移りません。PCでファイル名の末尾が .glb であることを確認します。

2 GLBスケールで読み込む

アプリの「GLBを開く」を押して、現場のGLBを選びます。色画像と測定用の準備が終わるまで待ちます。初回は準備に時間がかかることがあります。

3 地面が水平か確認

建物が横倒しなら「詳細・メモ・設定」内の「モデルの向き・単位・推定設定」で90 ° 回転します。標準は「1モデル単位＝1 m」。初めて使うデータは、既知の寸法と照合します。

4 選びたい壁を見やすくする

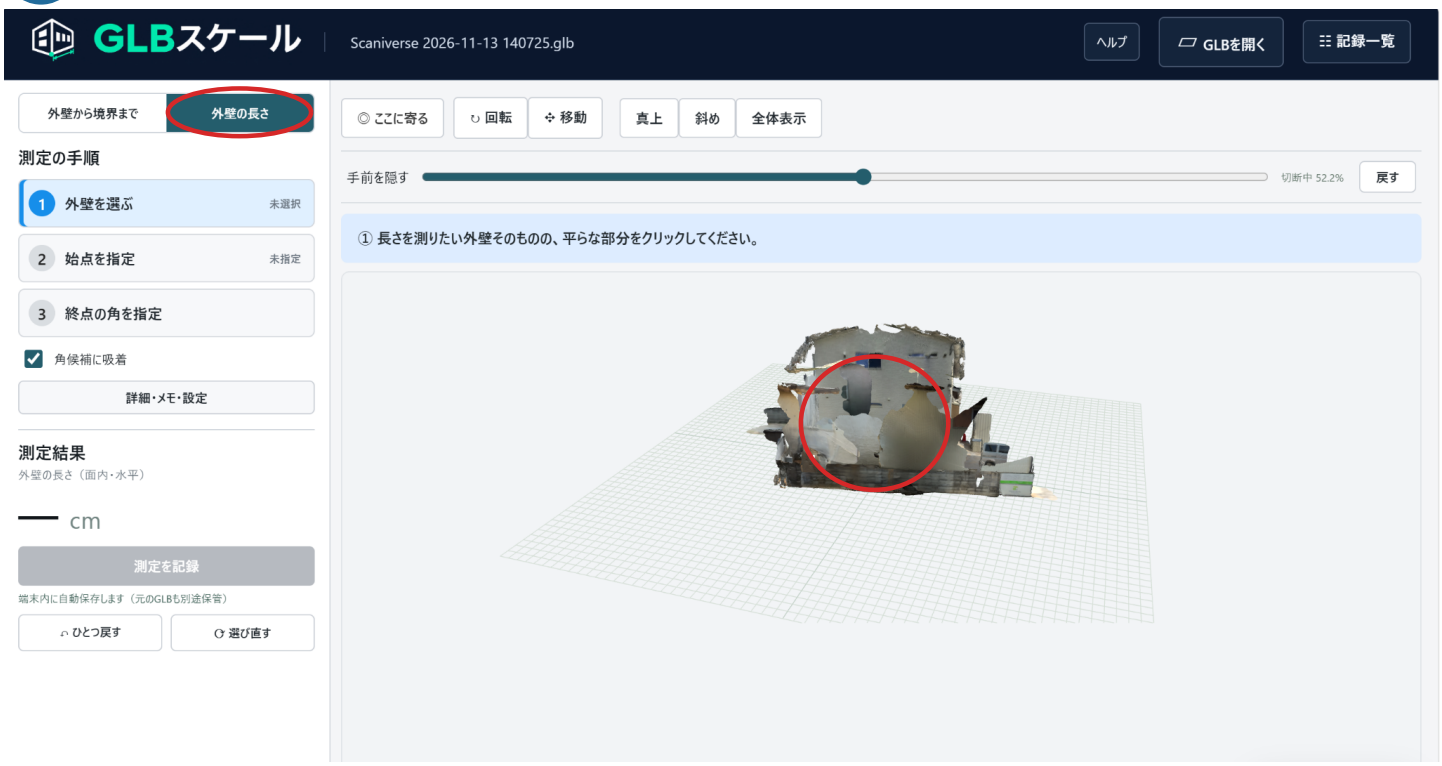
「回転」「移動」で視点を整え、ホイールで拡大・縮小。「ここに寄る」を押して場所をクリックすると、その周りへ近づけます。手前の塀が邪魔なら「手前を隠す」を少し動かします。

回転	「回転」＋左ドラッグ、または右ドラッグ
移動	「移動」＋左ドラッグ、またはShift＋右ドラッグ
拡大・縮小	マウスホイール
迷ったとき	「全体表示」または「斜め」で見直す
スマホ	「回転／移動」を選んで1本指。2本指で拡大・移動

外壁の長さを測る

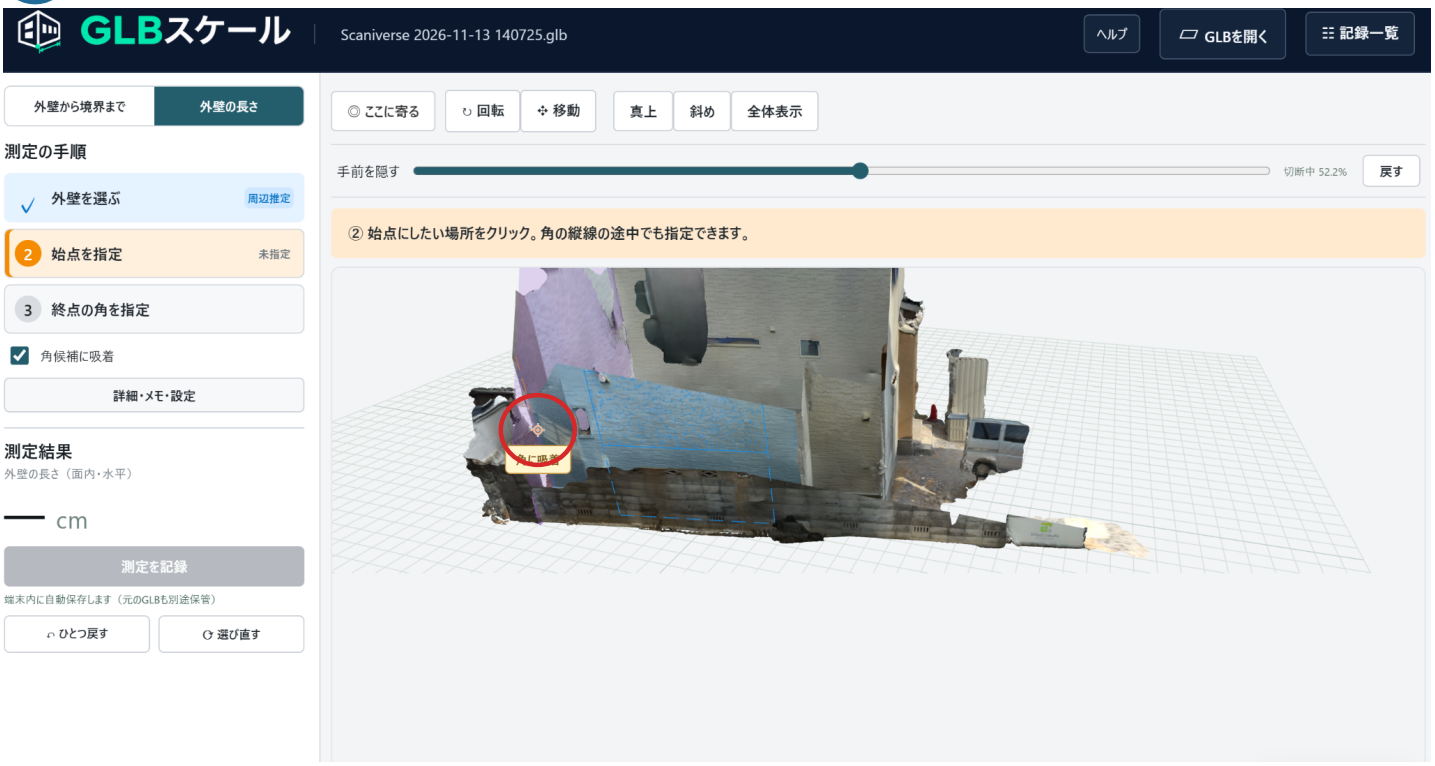
外壁の長さ

1 「外壁の長さ」を選び、測りたい外壁をクリック



左上の「外壁の長さ」を選択。建物の、長さを測りたい外壁そのものの平らな部分をクリックします。窓・地面・出っ張りは避けます。

2 始点にしたい場所をクリック

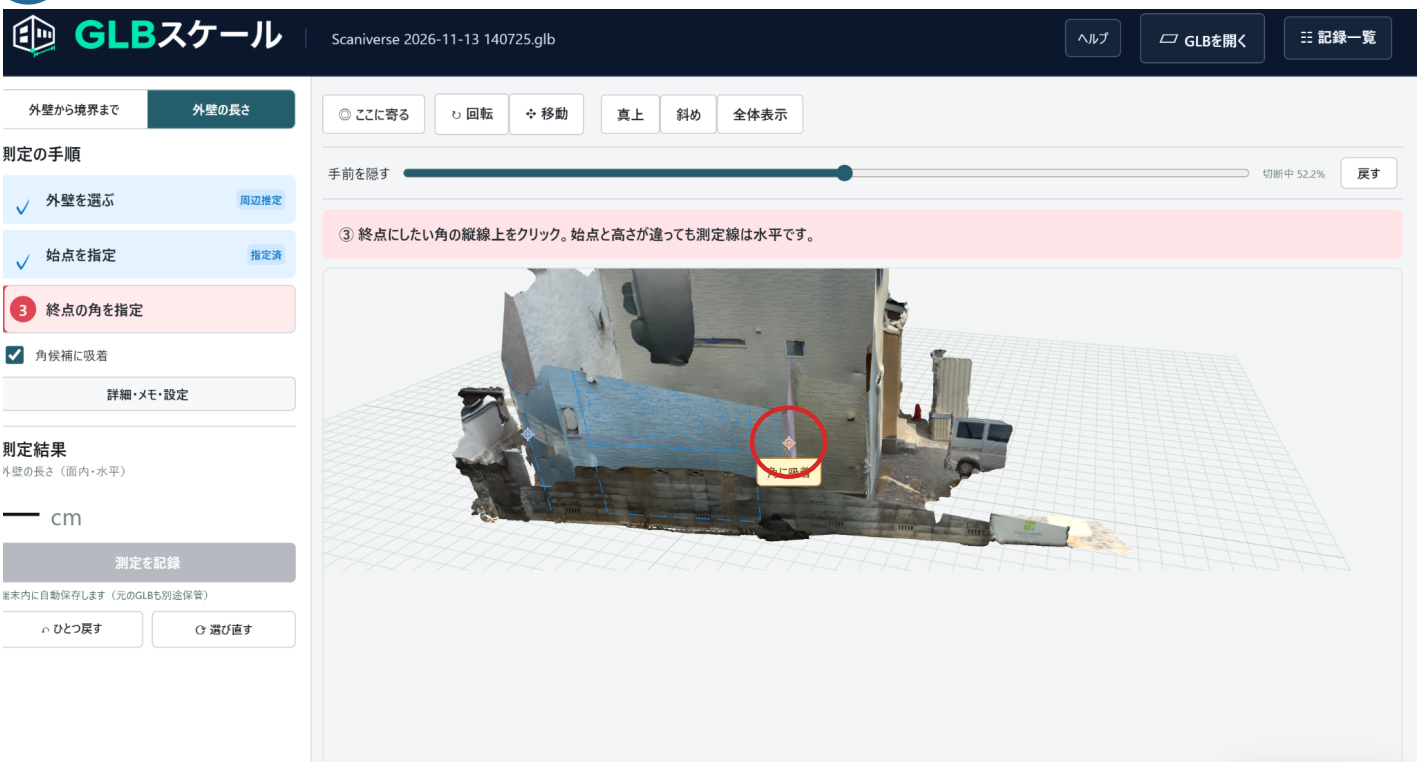


赤丸の角付近など、始点にしたい場所をクリック。青い表示が対象の外壁かを確認します。角候補への吸着は補助なので、合わなければ「角候補に吸着」を外して指定します。

外壁の長さを測る

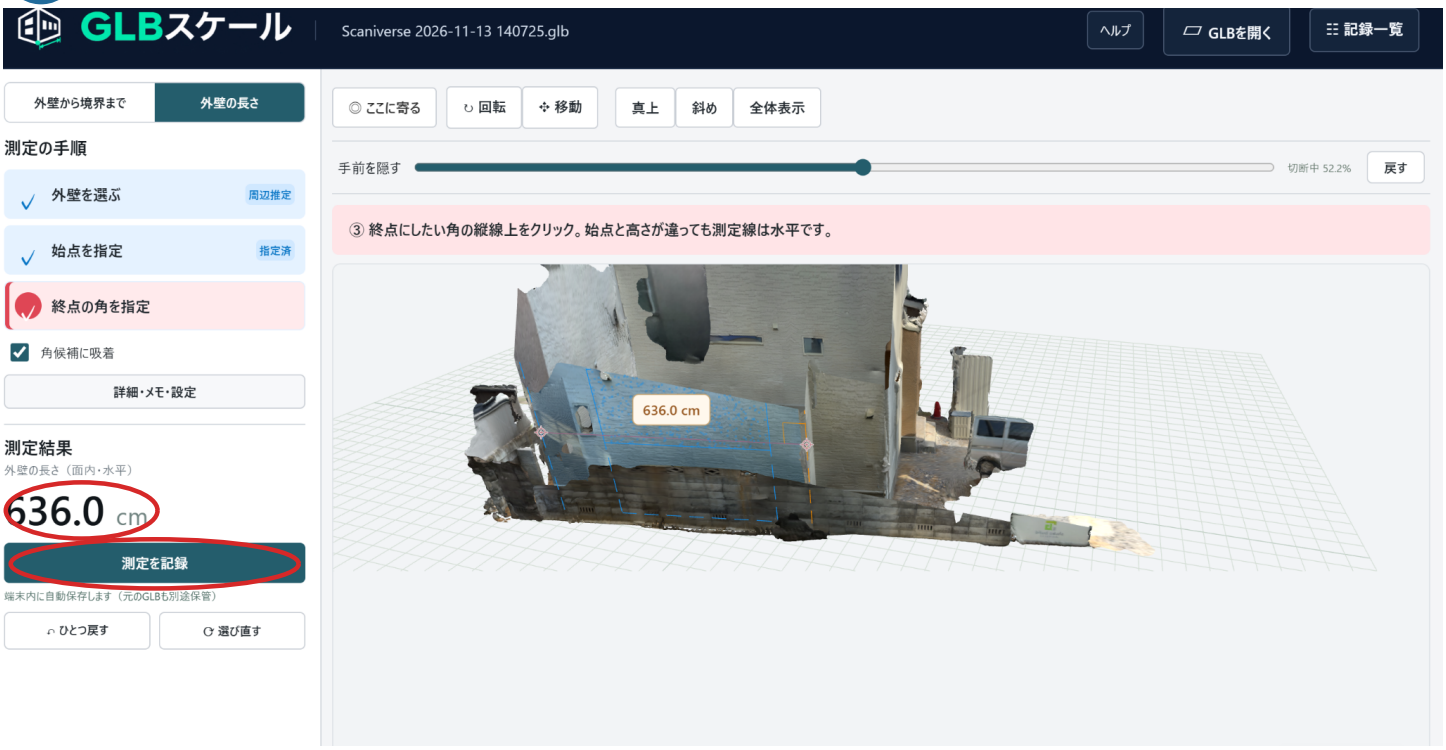
外壁の長さ

3 反対側の終点をクリック



測りたい外壁の反対側の角付近をクリックします。始点とクリックする高さが違っても、外壁の面内の水平な長さを測ります。曲がった先の角を選んでいないか確認してください。

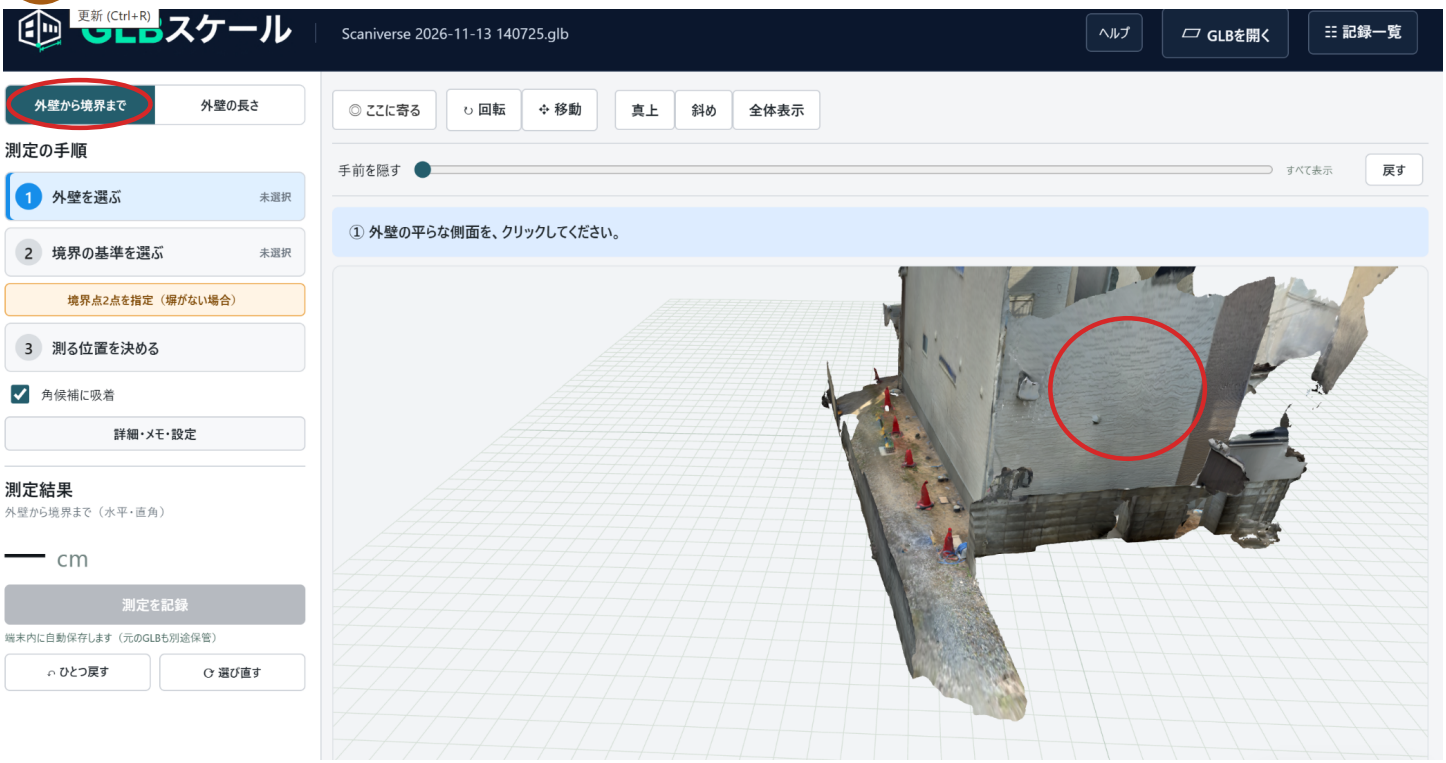
4 結果と両端を確認し、「測定を記録」



この例の結果は636.0 cm。測定線の両端が意図した位置か確認。「測定を記録」を押し、画像確認へ進みます。画像で位置が分かることを確認して記録します。

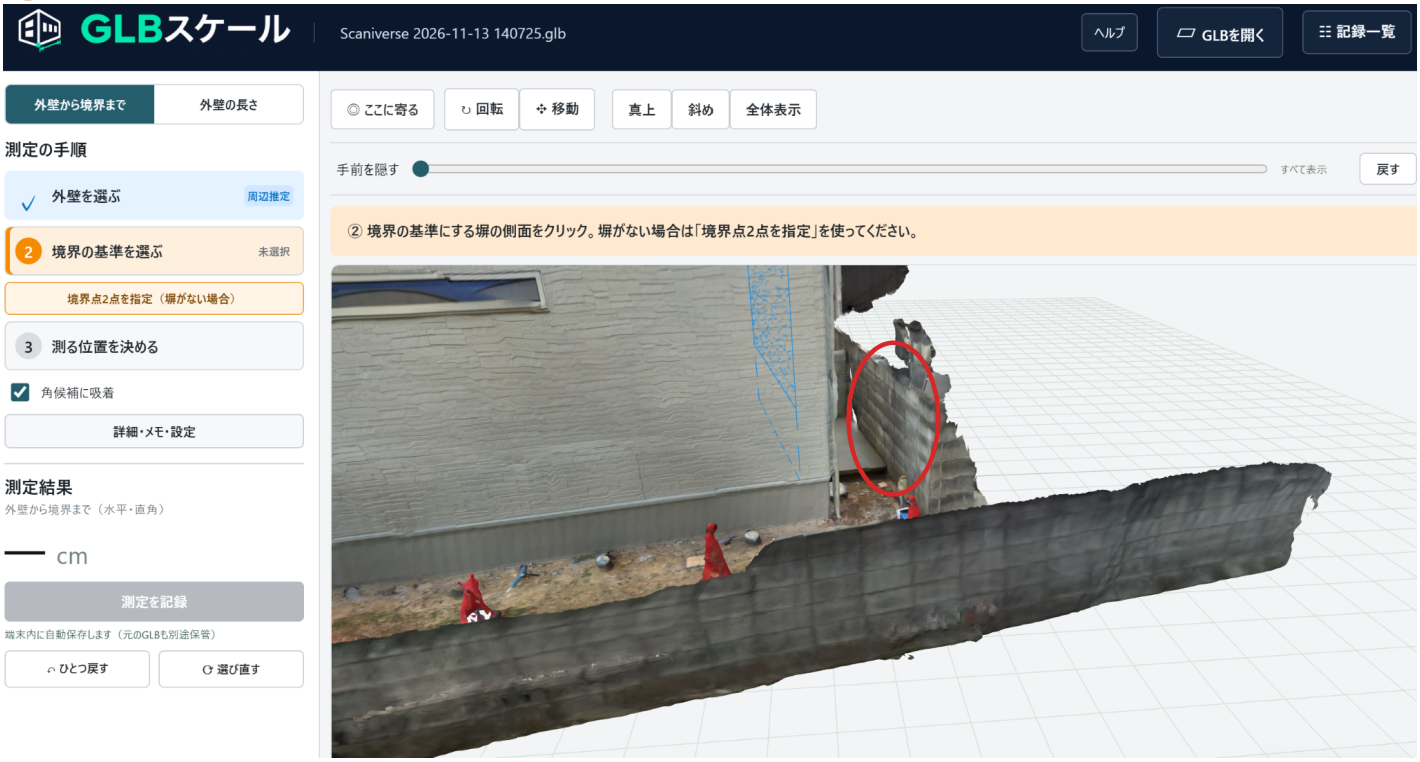
外壁から境界まで

1 「外壁から境界まで」を選び、外壁をクリック



左上の「外壁から境界まで」を選択。距離を測る外壁の平らな側面をクリックします。外壁から境界の基準まで、外壁に直角な水平方向の距離を測るモードです。

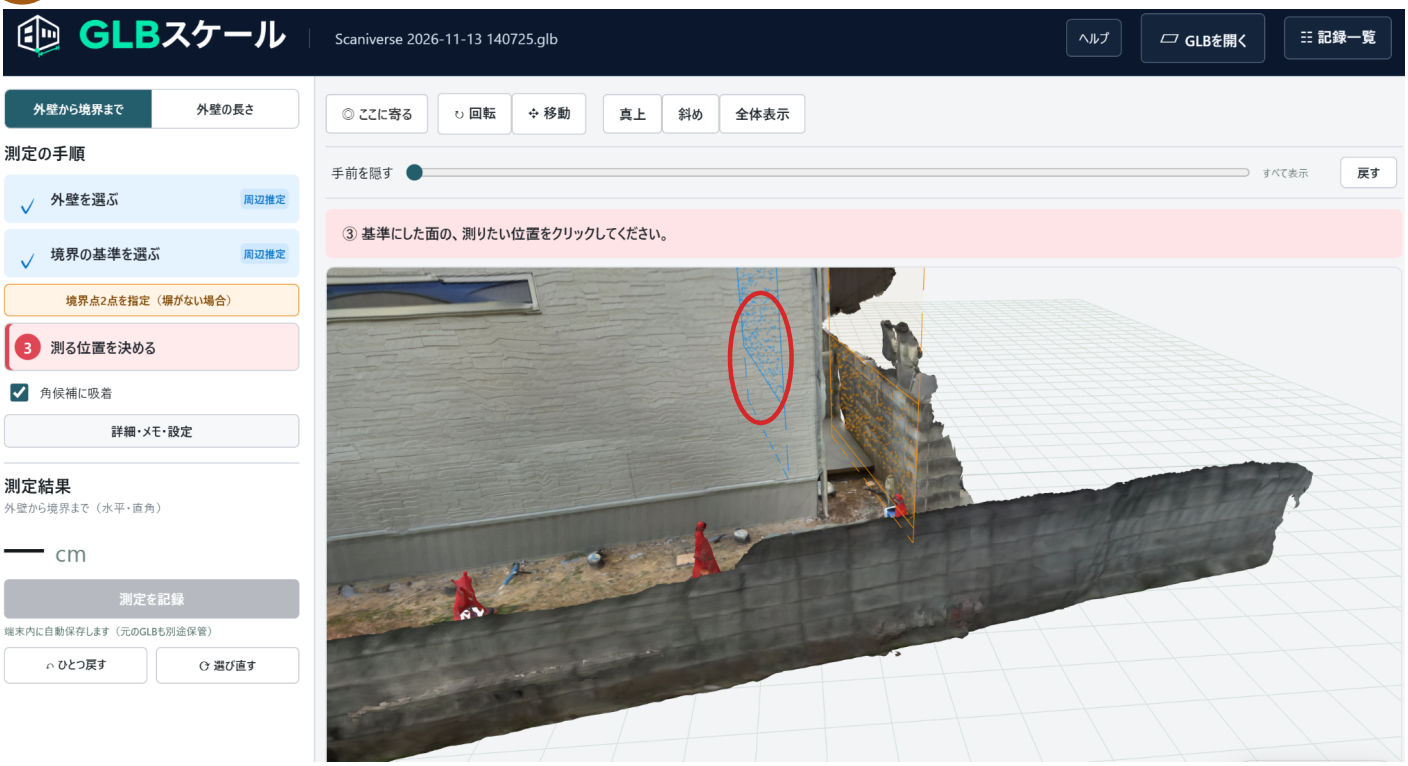
2 境界の基準にする塀の側面をクリック



この例では赤丸の、奥へ伸びる塀の側面を選びます。手前を横切る別の塀、塀の上面、地面と取り違えないでください。どの面を境界の基準にするかは事前に確認しておきます。

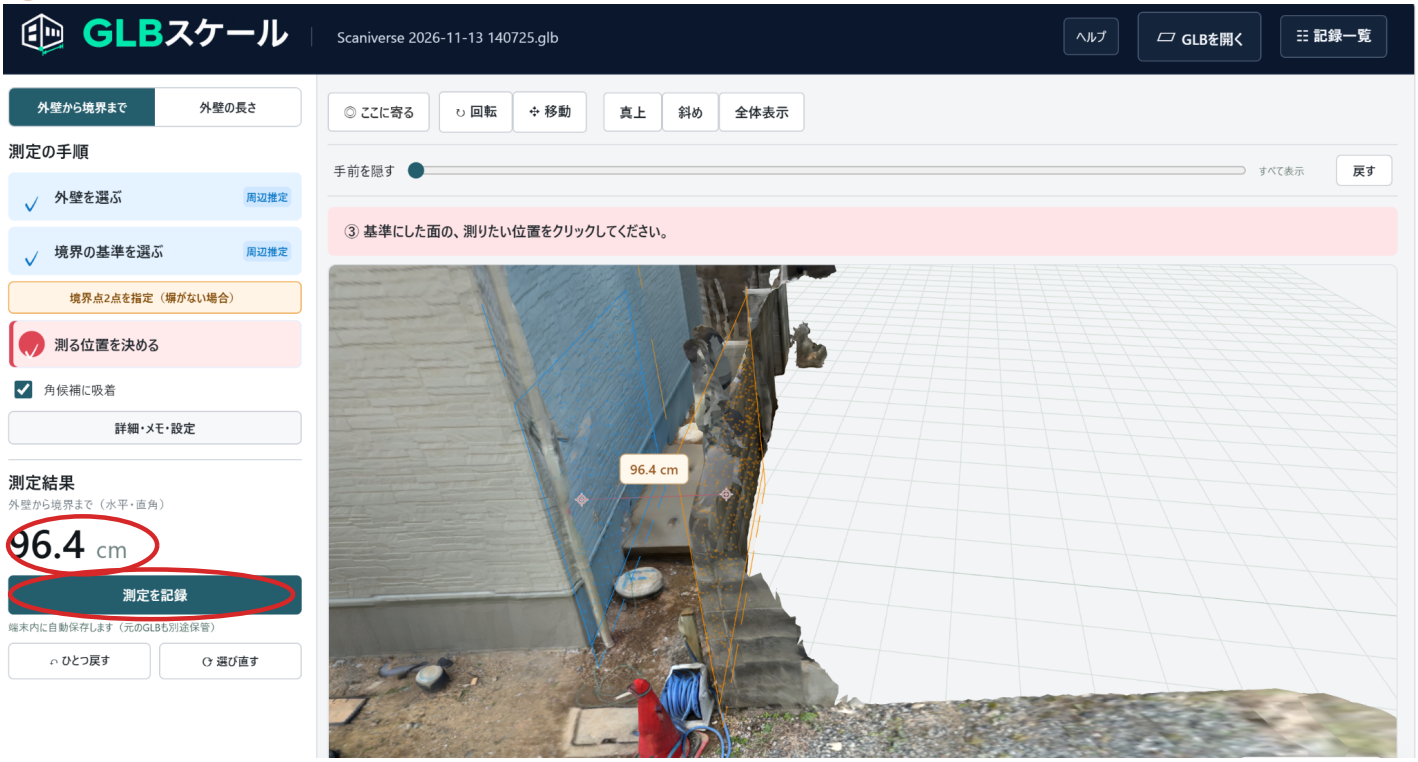
外壁から境界まで

3 水色の外壁で、測る位置をクリック



境界の基準が選ばれるとオレンジで表示されます。次に、水色の外壁上で測りたい基準点をクリックします。塀が低い場合も、面を鉛直に延長した位置で距離を求めます。

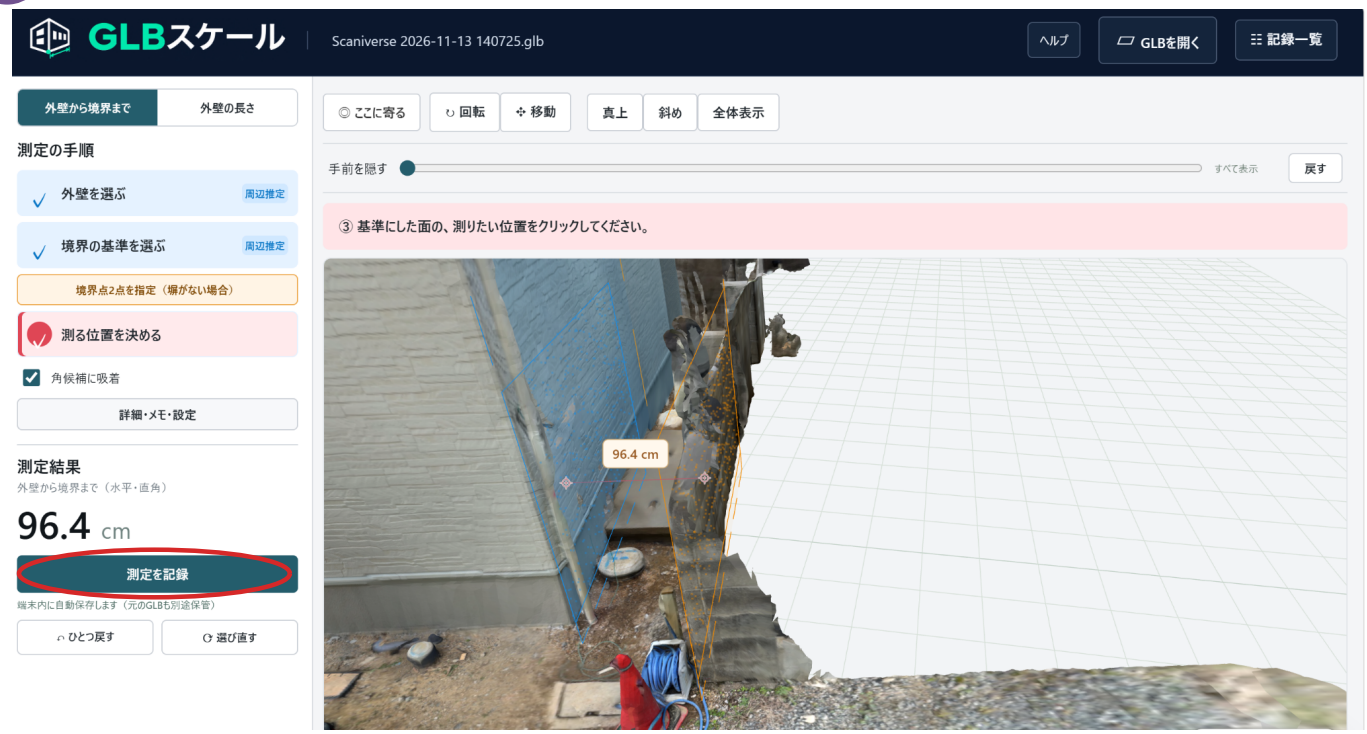
4 距離と位置を確認し、「測定を記録」



この例の結果は96.4 cm。青い外壁・オレンジの基準面・赤い測定線の位置が意図どおりか確認します。「測定を記録」を押し、画像確認後に記録します。

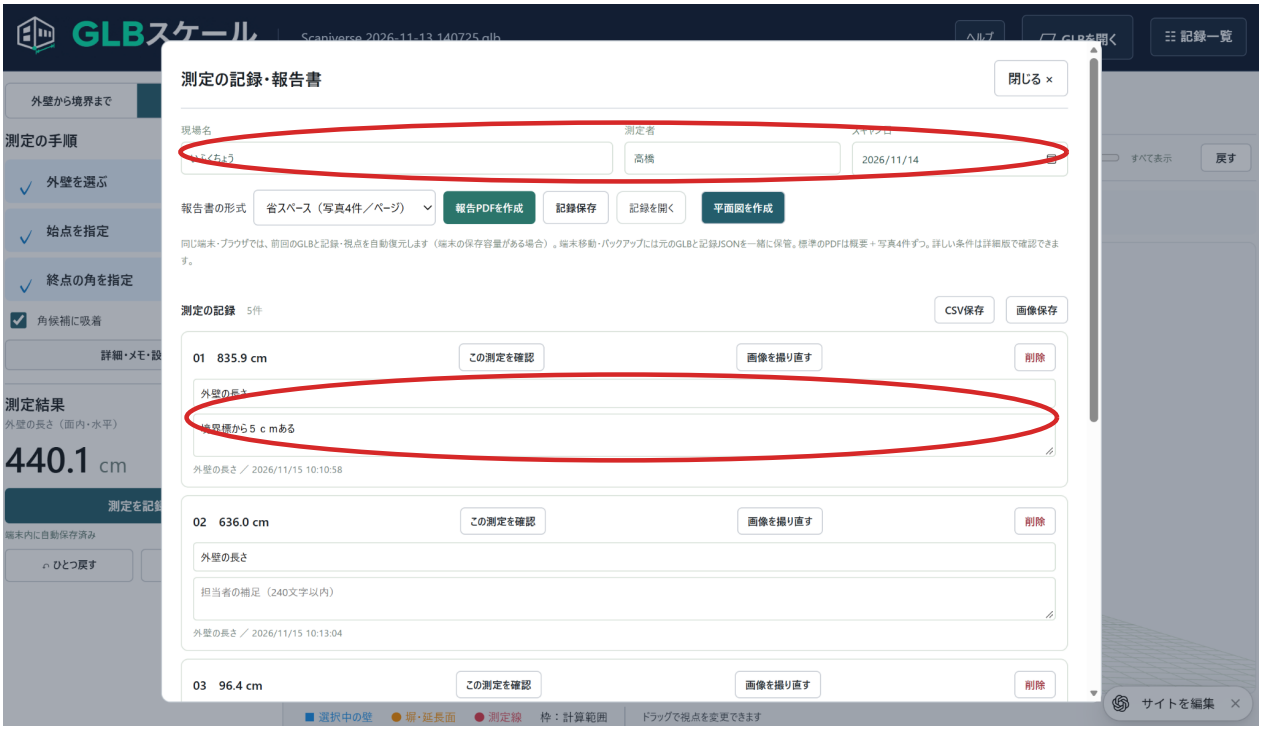
記録する・内容を整える

1 測定結果を確認し、「測定を記録」



測定線の両端と数値を確認して「測定を記録」を押します。続く画像確認で、測った場所が分かるか確認して記録。その後、右上の「記録一覧」を開きます。

2 現場名・測定者・スキャン日、記録を整える



上段に現場名・測定者・スキャン日を入力。各記録の測定箇所名とメモも整えます。「この測定を確認」で見直し、「画像を撮り直す」で写真を変更。「削除」は確認後に削除され、番号が詰め直されます。

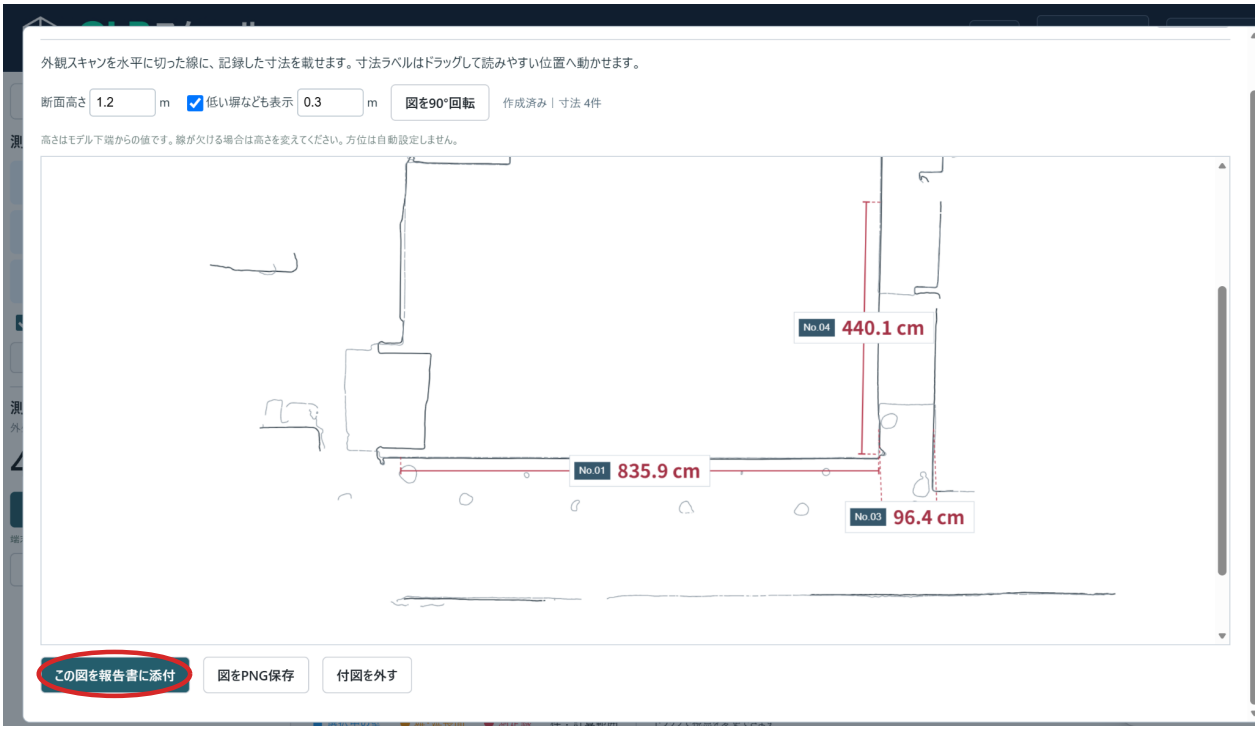
平面参考図を添付する

3 「平面図を作成」から図を整える



記録一覧の「平面図を作成」を押して、この画面を開きます。線が欠けるときは「断面高さ」や「低い塀なども表示」の高さを調整。寸法ラベルはドラッグして読みやすい位置へ動かせます。

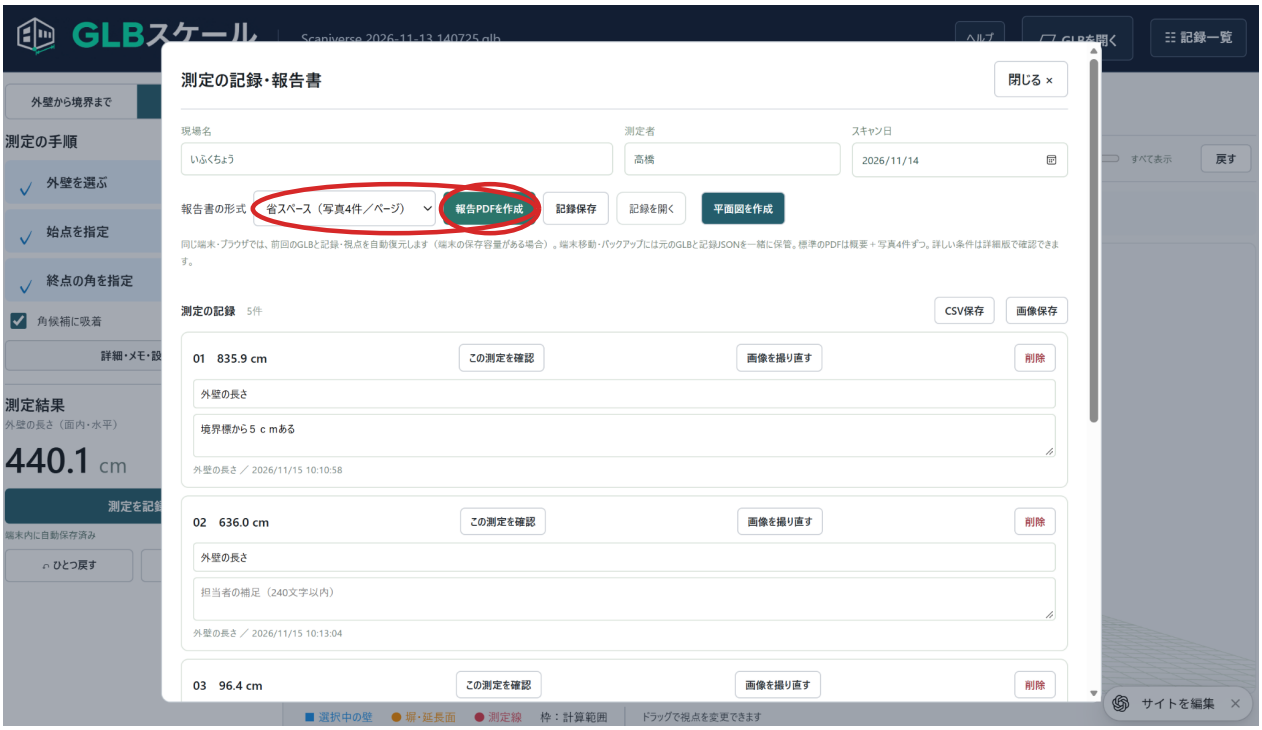
4 「この図を報告書に添付」を押す



画面を下へスクロールし、左下の「この図を報告書に添付」を押します。「図をPNG保存」は図だけの保存、「付図を外す」は報告書への添付解除です。平面参考図の方位は自動設定されません。

報告PDFを作成する

5 報告書の形式を選び、「報告PDFを作成」



形式は「省スペース（写真4件／ページ）」などから選択。「報告PDFを作成」を押すと、PCでは作成後にダウンロードが始まります。スマホは作成後「PDFを保存・共有」から保存します。

6 報告書の全体図・平面参考図・一覧を確認



建物現地測定 記録報告書

いふくちょう

現場名
いふくちょう

測定者
高橋

スキャン日
2026-11-14

元データ：Scaniverse 2026-11-13 140725.glb

元GLB照合用 SHA-256：dd51ca5c33fe3af28daf4875bb8767b59445f1043d583c296d2bfa4518aa0b6a

全体図・測定位置

寸法入り平面参考図

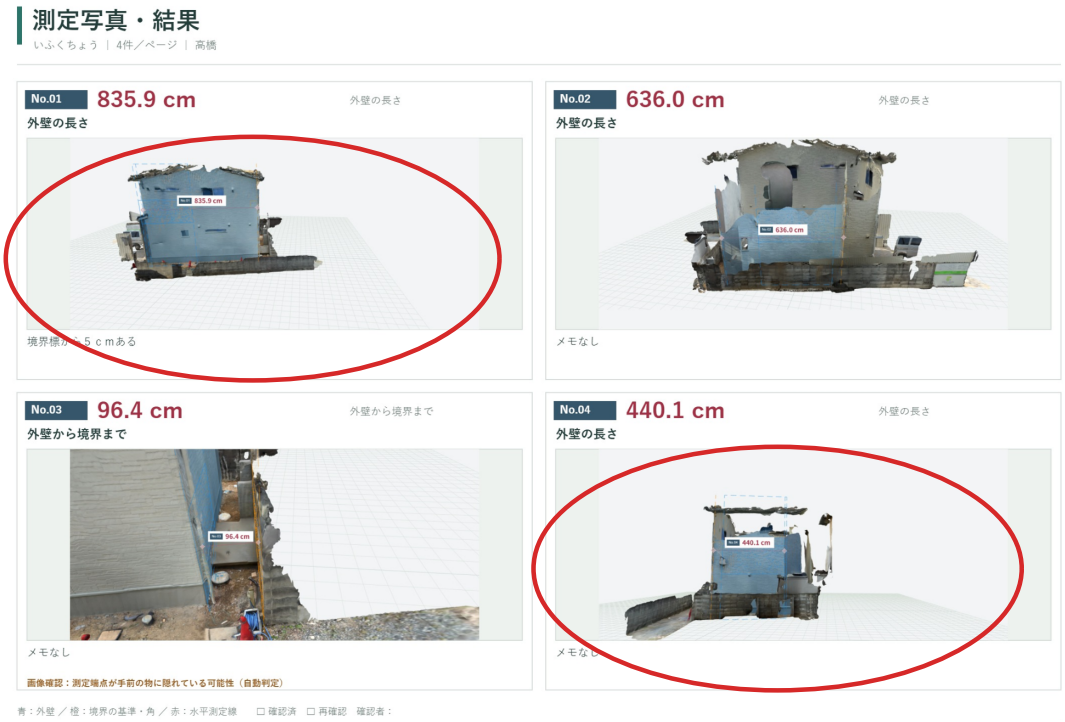
全体図：建物全体と測定位置を表示。紺色の番号札は下表および各測定ページの番号に対応。

番号	測定箇所	測定方法	結果	記録日時（日本時間）
01	外壁の長さ	外壁面内・水平距離	835.9 cm	2026/11/15 10:10:58
02	外壁の長さ	外壁面内・水平距離	636.0 cm	2026/11/15 10:13:04
03	外壁から境界まで	外壁に直角な水平距離（面を延長）	96.4 cm	2026/11/15 14:50:05
04	外壁の長さ	外壁面内・水平距離	440.1 cm	2026/11/15 14:51:46

報告書の先頭ページです。現場情報、全体図の測定番号、添付した平面参考図、一覧の番号と数値が対応しているか確認します。写真の現場名や寸法は、この説明書用の例です。

報告書を確認し、記録データも保存する

7 写真ページで、測った場所と結果を確認



各写真のNo.と数値を、先頭ページの一覧と照合します。測定線・両端の位置が分かるかを確認。画像確認の注意が出ている記録は、元の3D画面も見直し、必要なら画像を撮り直してください。

終了前に「記録保存」でバックアップ

記録一覧の「記録保存」でJSONファイルを保存します。報告PDFは閲覧・提出用、JSONは測定条件や画像を開き直すためのデータです。元のGLB・記録JSON・報告PDFを同じ現場フォルダーで保管してください。

別の端末やURLで開き直すとき

元のGLBを開いてから、記録一覧の「記録を開く」で対応するJSONを選びます。端末内の自動保存だけに頼らず、終了時はJSONも保存してください。

終了時の保存と、困ったとき

元のGLB・記録JSON・報告PDFを、同じ現場フォルダーで保管します。

終了時は「記録保存」

同じ端末・ブラウザ・URLでは端末内に自動保存しますが、持ち出し・バックアップには「記録保存」でJSONを保存してください。GLB本体とJSONがあれば、測定条件や画像を開き直せます。

開き直すとき

元のGLBを開いてから「記録を開く」で対応するJSONを選びます。同じGLBかどうかを照合します。ファイル名だけ同じでも中身が違えば読み込めません。

Cloudflareへ移る前に

公開URLが変わると、端末内の自動保存データは自動では移りません。今のアプリで「記録保存」をして、GLBとJSONを保管。移行先のアプリで順に開いてください。

白くなった・動かなくなった

GLBを開き直します。PCで3D表示できない場合は、Edge・Chromeのグラフィック アクセラレーション設定を確認。大きいデータはスマホで重くなる場合があります。

面・角が思った場所と違う

視点を変えて選び直し。選ぶ壁を間違えた場合は「選び直す」。角が合わない場合は吸着を外す。「推定未確定」は、クリック周辺の面を確定できず、前の面を使っている状態です。

実寸との違いが気になる

面のばらつきは、実物との測定誤差を保証する値ではありません。スキャンの揺れや面の推定に影響されます。図面・既知の寸法と照合し、判断が難しい箇所は現地で再確認してください。

GLBの測定処理・画像・記録はこの端末内で扱います。アプリの公開先をCloudflareにしても、測定データが自動でクラウド保管・共有される機能にはなりません。